

《循環器 No2 問題》

- 問 1 循環器用薬に配合されるユビデカレノンに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。
- a 肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
  - b 摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。
  - c 副作用として、胃部不快感、食欲減退、吐きけ、下痢、発疹・痒みが現れることがある。
  - d ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	正	正
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問 2 循環器用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされ、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- b ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c コウカ（キク科のベニバナの管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧縮して板状としたものを基原とする生薬）には、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- d 七物降下湯は、体力中等度以上で、のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭重、不眠、不安）、鼻血、痔出血、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 3 循環器用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- b ユビデカレノンは、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。
- c ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正

問 4 循環器用薬に含まれている成分であるユビデカレノンに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- b 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を抑えることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
- c ユビデカレノンを含む食品と強心薬等の併用により、胃部不快感や吐きけ、下痢等の副作用が現れやすくなるおそれがある。
- d 小児において心疾患による動悸、息切れ、むくみの症状があるような場合には、医師の診療を受けることが優先されるべきであるが、15歳未満の小児向けの製品も存在する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

- 問 5 ユビデカレノンに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。
- a 肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
  - b 摂取された栄養素からエネルギーが産生される際に主にビタミンCとともに働く。
  - c 医薬品的な効能効果が標榜又は暗示されていなければ、食品（いわゆる健康食品）の素材として流通させることが可能である。
  - d 15歳未満の小児向けのユビデカレノンを含む一般用医薬品も存在する。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

- 問 6 循環器用薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
- 1 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。
  - 2 イノシトールヘキサニコチネートは、末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
  - 3 ユビデカレノンは、作用増強を目的として強心薬との併用が推奨される。
  - 4 ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

問 7 循環器用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a コウカには、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- c ユビデカレノン は、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を抑えることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
- d 七物降下湯は、小児向けの漢方処方ではなく、15歳未満の小児への使用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 8 循環器用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 生薬成分であるコウカは、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ユビデカレノン は、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける。
- c ヘプロニカートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	正	正	正
4	誤	正	誤

問 9 ユビデカレノンに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
- b 摂取された栄養素からエネルギーが産生される際に、ビタミンKとともに働く。
- c 心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
- d 軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	正

問 10 第1欄の記述は、循環器用薬の代表的な配合成分に関するものである。第1欄の記述に該当する配合成分として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

第2欄

- 1 コウカ
- 2 ユビデカレノン
- 3 ヘプロニカート
- 4 イノシトールヘキサニコチネート
- 5 ルチン

問 11 以下の循環器用薬の漢方処方製剤である三黄瀉心湯の記述について、( ) の中に  
入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

体力中等度以上で、( a ) 気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状、鼻血、痔出血、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされるが、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、だらだら出血が長引いている人では不向きとされる。

構成生薬として ( b ) を含む。

( c ) に用いる場合には、漫然と長期の使用は避け、5～6回使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止する。

- 1 a のぼせ b ダイオウ c 更年期障害
- 2 a 貧血 b マオウ c 鼻血
- 3 a 貧血 b ダイオウ c 更年期障害
- 4 a のぼせ b マオウ c 更年期障害
- 5 a のぼせ b ダイオウ c 鼻血

問 12 循環器用薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされる。
- 2 ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- 3 ヘプロニカートは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- 4 七物降下湯は、構成生薬としてダイオウを含み、本剤を使用している間は、瀉下薬の使用を避ける必要がある。

問 13 循環器用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 七物降下湯は、体力中等度以上で、のぼせ気味で顔面紅潮し、精神不安、みぞおちのつかえ、便秘傾向などのあるものの高血圧の随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭重、不眠、不安）、鼻血、痔出血、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされる。
- b ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	正	正